

様式第 1 号

令和元(2019)年 7 月 23 日

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 学校法人筑紫女学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 柚山眞乗

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	筑紫女学園大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	<input checked="" type="checkbox"/> 大学・短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	福岡県太宰府市石坂 2 丁目 12 番 1 号
学長又は校長の氏名	学長 中川 正法
設置者の名称	学校法人筑紫女学園
設置者の主たる事務所の所在地	福岡県太宰府市石坂 2 丁目 12 番 1 号
設置者の代表者の氏名	理事長 柚山眞乗
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.chikushi-u.ac.jp/

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第 7 条第 1 項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点(☑)を付けて下さい。

- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第 7 条第 2 項第 3 号及び第 4 号に該当します。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人 筑紫女学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語・日本文学科	夜・通信	14		6	39	13	-
	英語学科				6	39	13	-
	アジア文化学科				6	39	13	-
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース	夜・通信	19	24	37	80	13	-
	人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース				38	81	13	-
	人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース				46	89	13	-
	人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース				48	91	13	-
現代社会学部	現代社会学科	夜・通信		2	72	93	13	-
(備考) 文学部/人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻/現代社会学部 1年生は2019年度課程 2～4年は2015年度課程 人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻 1年生は2019年度課程 2年生は2018年度課程 3～4年生は2015年度課程								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>・「実務経験のある教員等による授業科目」 (実務経験のある教員による授業科目の単位数、実務経験のある教員による授業科目、 実務経験のある教員のシラバス) https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/personnel/jitsumu ・Web シラバス https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園のホームページ https://www.chikushi.ac.jp/information/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職) 公立大学副学長	至：平成 32 年 3 月 6 日	教務
非常勤	現職) 住職	至：平成 32 年 3 月 6 日	総務
非常勤	現職) 株式会社相談役	至：平成 32 年 3 月 6 日	財務
非常勤	現職) 同窓会顧問	至：平成 32 年 3 月 6 日	総務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている</p> <p>・授業計画(シラバス)の作成過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』を作成し、シラバスに関するFDを開催する。 2. 本学が策定した「三つの方針」のうち特にDPに対し、各学科・専攻がどのような学生を育てたいのか、カリキュラム全体を俯瞰してカリキュラムチェックを行う。シラバスに関するFDではその結果を踏まえ、「何を学び、どのような力を身に付けることができるか」を、シラバスにおいて明確にすることを目指す。 3. 作成後のシラバスは、第三者によるチェックを行い、必要に応じて修正。その後学内システムおよびHPにおいてシラバスを公開する。 <p>(シラバス内容)</p> <p>授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)、開講時期(前期、後期、通年)、担当教員、単位、授業の目的と概要、到達目標、この授業が目的としているDPや関連する科目など(実務経験のある教員の場合は内容を明記)、授業計画(授業の回数やスケジュール)、授業内容、授業外学修、成績評価(割合、種類・評価基準など)を記載。また、試験やレポートの内容、学習への意欲などを、どのように学修成果として評価し、単位を与え、または履修を認定しているのかを明示。</p> <p>※オフィスアワーおよびメールアドレス(学内ポータルサイト公開。HP未公開)</p> <p>・授業計画の作成・公表時期</p> <p>10～11月：カリキュラムチェック、12月：シラバスに関するFD、12～1月：シラバス作成、2月：シラバスチェック、3月 Web シラバス公開</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Web シラバス https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/ • 『シラバス作成マニュアル～授業計画作成ガイドライン～』 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている</p> <p>『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』および『成績評価のガイドライン』において、成績評価基準や評価方法を定めている。</p> <p>また、学則の「第5章 教育課程及び履修方法等」および履修規程の「第4章 単位」においても、評価や履修について定めている。(学則 (HP 公表)、『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付)</p> <p>各授業科目の学修成果の評価は、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示された成績評価の方法や基準により、各授業科目において学修成果の評価を行い、これに基づき、厳格かつ適正に単位授与や履修認定を実施している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている

- ・GPA等の客観的な指数の具体的な内容
- ・客観的な指標の適切な実施状況

【成績評価・GPA (Grade Point Average)】

履修した科目の評価は5段階の評定とし、卒業に必要な単位を修得するためだけではなく、主体的にかつ充実した学びにするための制度として、GPA(Grade Point Average)を導入している。

■成績評価・GPA 算出基準

可否	評価	評点	グレードポイント
合格	秀 (S)	90～100点	4.0
	優 (A)	80～89点	3.0
	良 (B)	70～79点	2.0
	可 (C)	60～69点	1.0
不合格	不可 (D) (※1欠席 ※2無資格を含む)	59点以下	0.0

■GPAの計算式と対象

$$\frac{(4.0 \times \text{秀の修得単位数}) + (3.0 \times \text{優の修得単位数}) + (2.0 \times \text{良の修得単位数}) + (1.0 \times \text{可の修得単位数}) + (0.0 \times \text{不可の単位数})}{\text{総登録単位数}}$$

以下の科目はGPAの計算式の対象外となる。

- ①卒業単位にならない科目 (教職課程などの特別課程)
- ②単位認定科目「N」

※1 試験を欠席した場合、評価は「欠席」となる。

※2 授業出席日数が不足している場合、評価は「無資格」となる。

また、学修成果の評価と卒業認定基準をHPで公表すると共に、『成績評価のガイドライン』において、以下の項目について策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。

- ①シラバスの作成と閲覧
- ②成績評価 (GPA 算出基準と算出方法)
- ③履修登録単位制限 (CAP 制)
- ④単位と学修の量

なお、①～④については、『学生便覧～学生のための手引き～』(刊行物：入学時に

<p>学生へ配付)に記載している。</p> <p>GPA については、所属する学部等の中で各学生がどの位置にあるか（成績の分布状況）を把握することができるよう、学内ポータルサイトに公表する。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の評価と卒業認定基準 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・成績評価のガイドライン https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

※文学部/人間科学部/現代社会学部において概ね同様の取り扱いをしている

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

卒業の認定については、学則の第6章「卒業及び学位」において、卒業の要件および卒業の認定および学位について定めている。

第6章 卒業及び学位 (学則より抜粋)

(卒業の要件)

第27条 本学を卒業するためには、学生は4年以上在学し、別表第一(1)から別表第一(9)に定める授業科目について、別表第一(10)において、所属学科又は専攻ごとに定める単位数を修得しなければならない。

2 学生は、第23条により履修した他学部等の科目を、20単位を限度として、卒業に必要な自由選択科目の単位数に組み入れることができる。

(卒業の認定及び学位)

第28条 本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。

学部	学科・専攻	学位
文学部	日本語・日本文学科	学士(文学)
	英語学科	学士(文学)
	アジア文化学科	学士(文化学)
人間科学部	人間科学科	心理・社会福祉専攻 学士(人間科学)
		初等教育・保育専攻 学士(人間科学)
現代社会学部	現代社会学科	学士(現代社会)

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定・学位授与の方針(DP)と教育課程編成・実施の方針(CP)、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位)を定め公表(HP)している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の(卒業の認定及び学位)第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則(HPにて公表)および『学生便覧』(刊行物:入学時に学生へ配付)にて明示。

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>【ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業認定・学位授与の方針 (DP) : https://www.chikushi-u.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/227_ZHAYMDE4.pdf ・ 学修成果の評価と卒業認定基準 : https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・ 卒業判定要件および学位 : https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement ・ 大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/2018_regulations_university.pdf <p>【刊行物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『学生便覧』 刊行物 : 入学時に学生へ配付
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	筑紫女学園大学
設置者名	学校法人筑紫女学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	(ホームページ) http://www.chikushi-u.ac.jp
収支計算書又は損益計算書	(ホームページ) http://www.chikushi-u.ac.jp
財産目録	(ホームページ) http://www.chikushi-u.ac.jp
事業報告書	(ホームページ) http://www.chikushi-u.ac.jp
監事による監査報告(書)	(ホームページ) http://www.chikushi-u.ac.jp

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose
(概要) 文学部は、建学の精神に基づく確かな人間観を基盤として、多様な言語・文化を通して人間の生き方を学び、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力をもって社会の発展に貢献できる女性の育成を目的とする。 ◎日本語・日本文学科 日本語・日本文学科は、日本語・日本文学・日本文化に関する専門知識を基盤に、豊かな確かな言語感覚と表現力、論理的な思考力を身につけて、社会の幅広い分野で活躍できる女性を育成する。 ◎英語学科 英語学科は、英語学や英語圏の文学など文化に関する専門知識を基盤に、高度な英語コミュニケーション能力と他者に共感できる国際感覚を身につけて、グローバル化する社会で活躍できる女性を育成する。 ◎アジア文化学科 アジア文化学科は、言語、社会、文化の観点からアジアの多様な社会事情について多角的、体験的に理解を深め、広い視野と共感をもって、国際共生社会の実現に貢献できる女性を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物） 【ホームページ】 ・卒業認定・学位授与の方針（DP）： https://www.chikushi-u.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/227_ZHAYMDE4.pdf ・学修成果の評価と卒業認定基準： https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard ・卒業判定要件および学位： https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement ・大学学則 https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/2018_regulations_university.pdf 【刊行物】 ・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付
(概要) 卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判定については、学則の第 6 章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第 28 条「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。 卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HP にて公表）および『学生便覧』

(刊行物：入学時に学生へ配付)にて明示。

卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HPにて公表）および『学生便覧』（刊行物：入学時に学生へ配付）にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目（基盤科目-基幹科目-発展科目）」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）や「カリキュラム・ツリー」（DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの）を作成している。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としている。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

(学修成果の評価の方針)

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並びに「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限（CAP制）を導入している。

(教育内容の点検・改善)

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

（概要）

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎文学部 日本語日本文学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
 2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
 3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
 4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
 5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
- (1)日本語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能力の向上を目指す人
 - (2)日本語や日本の文学、文化等に興味・関心を持っている人
 - (3)高等学校の国語において十分な学習を修め、古典に関しても学習している人

求める志願者の能力・取組み例

- ・読書への深い関心と、文芸創作能力
- ・日本語および日本の文学・文化に関する課外活動

- ・地域の活動や文化的な行事への積極的な参加
- ・書道などの日本の伝統的な文化活動への積極的な取り組み
- ・日本語や漢字能力ほか、各種検定等への取り組み

◎文学部 英語学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)英語の基礎学力（語彙力、表現力、読解力等）を高め、コミュニケーション能力の向上を目指す人
 - (2)英語圏の文学、文化等に興味・関心を持っている人
 - (3)高等学校の英語において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取り組み例

- ・優れた英語コミュニケーション能力
- ・英語圏における語学研修や留学への積極的な参加
- ・英語および英語圏の文学・文化に関する課外活動
- ・英語に関する各種検定等への取り組み

◎文学部 アジア文化学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人
 - (1)多様なアジア社会に興味・関心を持ち、視野を広げたい人
 - (2)アジアの言語に興味を持ち、コミュニケーション能力を身に付けたい人
 - (3)アジアの文化を体感し、その歴史を理解したい人
 - (4)高等学校の社会の科目（世界史、地理、政治・経済、日本史など）において十分

な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・基礎的な言語コミュニケーション能力
- ・中国語や韓国語などの基礎的な学習体験
- ・海外（特にアジア諸国）における語学研修や留学への積極的な参加
- ・アジアの国々や人々との交流プログラム参加
- ・英語、中国語、韓国語ほか諸言語に関する各種検定等への取組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、合否を判定する。

学部等名 人間科学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose>

（概要）

人間科学部は、建学の精神に則って、人間の生涯発達や生活を取り巻く諸課題に対する科学的認識を深め、その解決に向けて適切に対処するための実践的な知識と技術をもって、人間が互いに支え合って生きることを支援する社会づくりに貢献できる女性の育成を目的とする。

◎心理・社会福祉専攻（発達臨床心理コース／社会福祉コース）

心理・社会福祉専攻は、人間の生涯発達及び人間と社会に関する科学的認識を基盤として、家庭や地域・職場などの生活場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもって、人間・社会支援に貢献できる女性を育成する。

◎初等教育・保育専攻（初等教育コース／幼児保育コース）

初等教育・保育専攻は、人間の生涯発達と心の働きに対する科学的認識を基盤として、子どもの発達を取り巻く場面において生起する諸課題に対する理解を深め、確かな専門知識と技術をもつ支援者として、人間・社会に貢献できる女性を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物）

【ホームページ】

- ・卒業認定・学位授与の方針（DP）：

https://www.chikushi-u.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/227_ZHAYMDE4.pdf

- ・学修成果の評価と卒業認定基準：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard

- ・卒業判定要件および学位：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement

- ・大学学則

https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/2018_regulations_university.pdf

【刊行物】

- ・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第28条「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HPにて公表）および『学生便覧』（刊行物：入学時に学生へ配付）にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目（基盤科目-基幹科目-発展科目）」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）や「カリキュラム・ツリー」（DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの）を作成している。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としてい

る。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

(学修成果の評価の方針)

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並びに「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限（CAP制）を導入している。

(教育内容の点検・改善)

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy

(概要)

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力（学士力）を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身

に付けたい人「表現力」

- ・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻心理コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

(1)ひとの心の仕組みについて、科学的に探求したい人

(2)ひとの心の苦しみを理解するため、そのひとに寄り添って共に成長したいと願っている人

(3)高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、倫理など）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や各種ボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部人間科学科心理・社会福祉専攻社会福祉コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

(1)社会の様々な問題や課題への関心を持ち、人間に共感する感性を持っている人

(2)人間が人間らしく生きられる公正な社会の実現に関心を持ち、その担い手になり

たいと考えている人

(3)高等学校の社会の科目（現代社会、政治・経済、日本史など）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取組み例

- ・高等学校における福祉、介護、看護などの十分な学習と課外活動
- ・地域の活動や福祉に関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻初等教育コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

- (1)人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
- (2)子どもの成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
- (3)高等学校のすべての学習について、積極的に取り組んでいる人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や子どもの発達などに関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

◎人間科学部人間科学科初等教育・保育専攻保育コース

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

- (1) 人間や社会の様々な課題に関心を持ち、理解を深めたい人
- (2) 乳幼児の成長や発達に関心を持ち、積極的で意欲のある人
- (3) 高等学校のすべての学習について、積極的に取り組んでいる人

求める志願者の能力・取組み例

- ・地域の活動や子どもの発達などに関連するボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、可否を判定します。

学部等名 現代社会学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/purpose>

（概要）

現代社会学部は、社会学の基礎を理解し、調査・分析の能力を身につけたうえで、現代社会についてビジネス社会、メディア社会、環境共生社会のうちいずれかの領域を中心に学ぶ。問題解決力、コミュニケーション能力、主体性・リーダーシップを持った職業人として多様な場において社会の発展に貢献できる女性を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、刊行物）

【ホームページ】

- ・卒業認定・学位授与の方針（DP）：

https://www.chikushi-u.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/227_ZHAYMDE4.pdf

- ・学修成果の評価と卒業認定基準：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard

- ・卒業判定要件および学位：

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_judgment_requirement

- ・大学学則

https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/2018_regulations_university.pdf

【刊行物】

・『学生便覧』刊行物：入学時に学生へ配付

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位）を定め公表（HP）している。卒業判定については、学則の第6章「卒業及び学位」の（卒業の認定及び学位）第28条

「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。

卒業の認定及び学位に関しては、大学学則（HPにて公表）および『学生便覧』（刊行物：入学時に学生へ配付）にて明示。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/cp.pdf>

(概要)

筑紫女学園は、仏教特に浄土真宗の教えを建学の精神とし、「自律」、「和平」、「感恩」を校訓として掲げ、限りない〈いのち〉への目覚めをうながし、社会の中で自己を実現する人の育成を通して、新しい時代を創造することを基本理念としている。

筑紫女学園大学は、学生が本学での学生生活を通じて、人生を深く豊かに生き抜く力を身に付け、自立した女性を育成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、次のとおり教育課程編成・実施の方針を定めている。

(教育課程の編成)

本学の教育課程は、本学の「DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針）」に掲げる人材を養成するために、全学生を対象に開講する「全学共通科目」、学部や学科の学びの特色によって配置された「学部共通科目」及び「学科等の専攻科目（基盤科目-基幹科目-発展科目）」により編成している。

教育課程の編成を踏まえ、学生が適切な履修計画を立てることができるように、「カリキュラム・マップ」（DPと各授業科目がどのように関連しているのかを明示したもの）や「カリキュラム・ツリー」（DPと授業科目間の連携や順次性がわかるように明示したもの）を作成している。

(教育の実施・教育方法)

各授業科目はそれぞれの授業内容にあった受講人数を考慮したクラス編成としている。また、各授業科目において学生が主体的かつ能動的に、時には協働して学ぶことを支援している。

授業形態には「講義」、「演習」、「実習」、「実技」、「実験」があり、それぞれに適正な授業時間と授業外学修を定めている。授業形態や単位修得に必要な学習時間については、学則に定め、学生便覧やシラバスに明記することにより、それぞれの形態にあった十分な学習時間の確保を促している。

各授業科目では定められた「到達目標」とその達成に向けた授業内容を授業計画とともにシラバスに明記することで、学生の目的意識の喚起と学習計画の一助としている。

る。

(学修成果の評価の方針)

本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー:DP)を達成するために編成した教育課程は、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」並びに「シラバス」により、DPと各授業科目がどのように関連しているのか、科目を履修することによってどのような力を身につけることができるのかを明示し、各科目の到達目標を予め設定している。それらは、全て成績評価基準と併せてシラバスに明示し、厳格な成績評価を行っている。また、学生が十分な学習時間を確保し、学びの質を高めるために履修登録単位上限(CAP制)を導入している。

(教育内容の点検・改善)

教育課程全体の順次性や体系性を可視化した「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー」を作成したうえで、全ての授業科目において授業の目的や到達目標、身に付けることができる力を明示した「シラバス」を作成し、学生がそれぞれの学修計画に沿った履修ができるようにしている。

全ての授業科目は「シラバス」に基づいて行われ、「学生による授業評価アンケート」を実施することにより点検・教育改善に活かす。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページ)

https://www.chikushi-u.ac.jp/entrance/admission_policy)

(概要)

筑紫女学園大学は、建学の精神や校訓を踏まえ、本学において定義している大学卒業者にふさわしい力(学士力)を身に付け、学位授与の要件を満たした学生を社会に送り出します。そのため本学では、共に学び、それぞれの自己を実現したいと願う次のような学生を求めている。

- ・高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
- ・主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
- ・身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」
- ・自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」
- ・入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

◎現代社会学部現代社会学科

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けている人「知識・技能」
2. 主体性を持って様々な人々と協力しあいながら学ぶ態度を身に付けた人、または身に付けたい人「主体性・多様性・協働性」
3. 身に付けた知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて取り組んだ人、または取り組もうとする人「思考力・判断力」

4. 自らの考えや取り組みの成果を他者に伝えることができる人、または伝える力を身に付けたい人「表現力」

5. 入学を希望する学科等の教育内容や目指すものを理解し学ぼうとする人

(1) 現代社会を「ビジネス」「地域デザイン」「メディアデザイン」「ポピュラー文化」と関連づけて学ぶことに興味があり、理解を深めたい人

(2) 社会学の基礎を理解し、データを作成したり分析したりする能力を身に付けたい人

(3) 高等学校の社会の科目（現代社会、倫理、政治・経済、世界史、日本史、地理）において十分な学習を修めている人

求める志願者の能力・取り組み例

- ・地域の活動や各種ボランティア活動への積極的な参加
- ・各種検定や様々な資格取得への取り組み

《入学者選抜》

本学では、高校教育段階で身に付けた学力（知識・技能／主体性・多様性・協働性／思考力・判断力・表現力）を多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価し、合否を判定します。

②教育研究上の基本組織に関すること

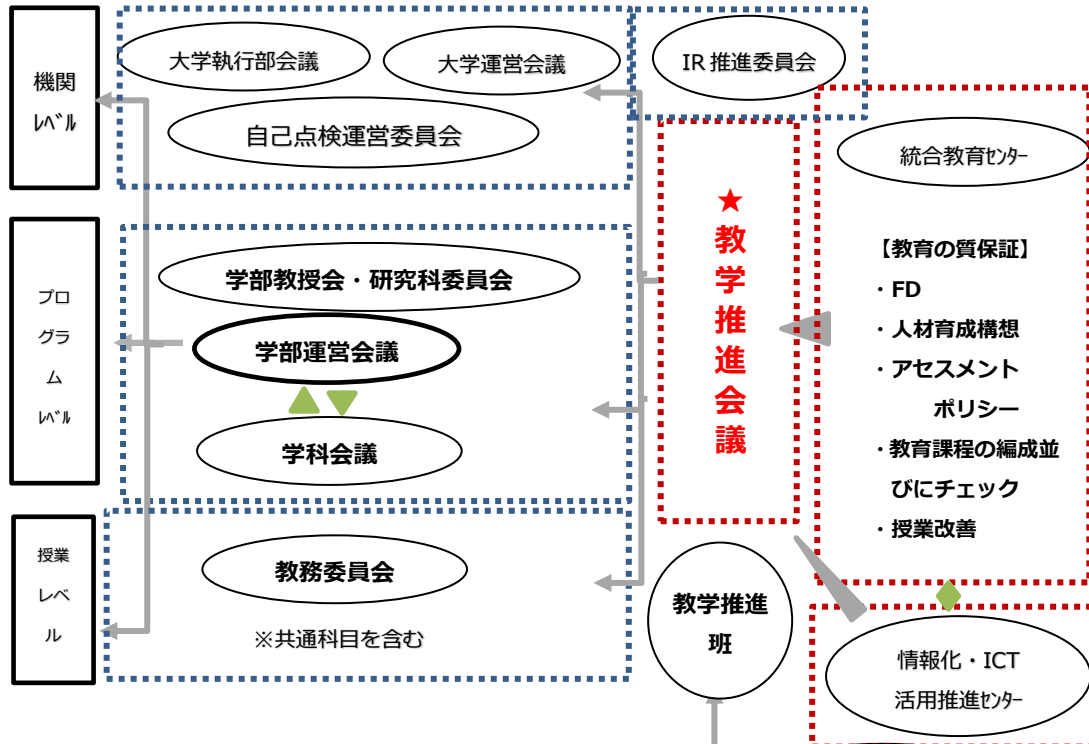
公表方法：ホームページ

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/>

学部長・研究科長を中心に、教学マネジメント（PDCA サイクル）を適切に機能させ、教育プログラムの改善・向上を図るとともに、その成果を説明・公表する。

学部長・研究科長を中心に、教学マネジメント（PDCA サイクル）を適切に機能させ、教育プログラムの改善・向上を図るとともに、その成果を説明・公表する。

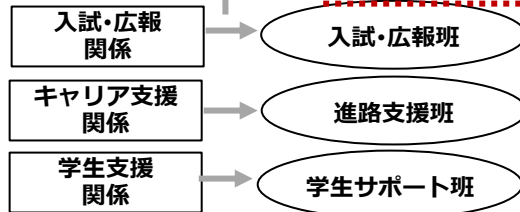
<体制>



★教学推進会議

(大項目)

- (1) 教育課程立案に関する事項
- (2) 教育内容及び教育方法の改善に関する事項
- (3) 教育効果の評価に関する事項
- (4) 教育的 I R 推進に関する事項
- (5) 学生の学習支援に関する事項
- (6) 入学前教育に関する事項
- (7) 教育施設に関する事項
- (8) 情報・視聴覚関連施設に関する事項
- (9) 情報・視聴覚関連教室の運営に関する事項
- (10) ICT を活用した情報教育全般に関する事項
- (11) その他統合教育センター並びに情報化・ICT活用推進センターの運営に関する事項
- (12) その他教学支援部所管業務に関する事項



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
文学部	－	21人	11人	1人	人	人	33人
人間科学部	－	15人	17人	4人	人	人	36人
現代社会学部	－	12人	8人	人	人	人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			161人			161人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ https://www.chikushi-u.ac.jp/about/scholarship/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、使命の中核である教育の向上・改善を実現する方法として、FD（Faculty Development）を次のように定義し、推進している。同時に、定義そのものの成熟を目指す。本学の教育理念の実現にむけ、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した（教育課程構築）、（授業・教授法の向上）、（組織の整備・改革）への教員・職員・学生による組織的な取り組みの総体とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度のFDの取組 ①教育の質保証の仕組みづくりに向けて ～学科がチームとして学生を育て上げるために～ ②教育の質保証の仕組み作り ～カリキュラムの目的に沿った到達目標の設定及び授業手法と身に付ける力の関係について～ ③シラバス作成について ④「基本理念と教育目標」学部における『内部質保証システム』の構築 ～学部マネジメントに関する取り組みの事例紹介～ <p>※学部マネジメントの実現に向けた概念共有を進めつつ、2019年度より新たにスタートしたカリキュラム（授業）の充実のための具体的な方針を定め、取り組みを行っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	260人	306人	117%	1056人	1151人	109%	8人	1人
人間科学部	300人	288人	96%	1200人	1129人	94%	-人	0人
現代社会学部	160人	126人	78%	640人	457人	71%	-人	2人
合計	720人	720人	100%	2896人	2737人	94%	8人	3人

(備考)				
b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	213 人 (100%)	4 人 (1.9%)	189 人 (88.7%)	20 人 (9.4%)
人間科学部	269 人 (100%)	8 人 (3.0%)	240 人 (89.2%)	21 人 (7.8%)
現代社会学部	63 人 (100%)	0 人 (0%)	59 人 (93.7%)	4 人 (6.3%)
合計	545 人 (100%)	12 人 (2.2%)	488 人 (89.5%)	45 人 (8.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先：筑紫女学園大学院、専門学校他 就職先：中学校教諭、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、特別支援学校、建設業、製造業、 放送・情報通信業、運輸業（航空）、運輸業（陸上）、卸売業・小売業、金融業・保険業、 不動産業・物品賃貸業、広告・技術サービス業、宿泊・旅行関係サービス業、 複合サービス業、公務員（正規採用）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	238人 (100%)	194人 (81.5%)	7人 (2.9%)	15人 (6.3%)	22人 (9.2%)
人間科学部	279人 (100%)	260人 (93.2%)	2人 (0.7%)	13人 (4.7%)	4人 (1.4%)
現代社会学部	70人 (100%)	63人 (90.0%)	2人 (2.9%)	3人 (4.3%)	2人 (2.9%)
合計	587人 (100%)	517人 (88.1%)	11人 (1.9%)	31人 (5.3%)	28人 (4.8%)

（備考）「留年者数」より「その他」の数が多くなっているのは、「その他」に休学により在学期間を満たしていない者・4年次必修科目の履修要件を満たしておらず修業年限期間内の卒業が見込めない者を卒業延期者として、留年者とは別に取り扱っているからである。留学するために休学している者が多いため、その数が多くなっている（特に文学部英語学科）。中途退学者については、経済的理由や進路変更によるものが多い。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

・授業計画（シラバス）の作成過程：

1. 毎年『シラバス作成マニュアル ～授業計画作成ガイドライン～』を作成し、シラバスに関するFDを開催する。
2. 本学が策定した「三つの方針」のうち特にDPに対し、各学科・専攻がどのような学生を育てたいのか、カリキュラム全体を俯瞰してカリキュラムチェックを行う。シラバスに関するFDではその結果を踏まえ、「何を学び、どのような力を身に付けることができるか」を、シラバスにおいて明確にすることを目指す。
3. 作成後のシラバスは、第三者によるチェックを行い、必要に応じて修正。その後学内システムおよびHPにおいてシラバスを公開する。

（シラバス内容）

授業形態（講義、演習、実験、実習、実技）、開講時期（前期、後期、通年）、担当教員、単位、授業の目的と概要、到達目標、この授業が目的としているDPや関連する科目など（実務経験のある教員の場合は内容を明記）、授業計画（授業の回数やスケジュール）、授業内容、授業外学修、成績評価（割合、種類・評価基準など）を記載。また、試験やレポートの内容、学習への意欲などを、どのように学修成果として評価し、単位を与え、または履修を認定しているのかを明示。

※オフィスアワーおよびメールアドレス（学内ポータルサイト公開。HP未公開）

授業計画の作成・公表時期：

10～11月：カリキュラムチェック、12月：シラバスに関するFD、12～1月：シラバス作成、2月：シラバスチェック、3月 Web シラバス公開

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価と卒業認定基準を HP で公表すると共に、『成績評価のガイドライン』において、以下の項目について策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施を行っている。</p> <p>①シラバスの作成と閲覧 ②成績評価 (GPA 算出基準と算出方法) ③履修登録単位制限 (CAP 制) ④単位と学修の量</p> <p>なお、①～④については、『学生便覧～学生のための手引き～』(刊行物：入学時に学生へ配付)に記載している。</p> <p>GPA については、所属する学部等の中で各学生がどの位置にあるか(成績の分布状況)を把握することができるよう、学内ポータルサイトに公表する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (DP) と教育課程編成・実施の方針 (CP)、学修成果の評価と卒業認定基準、卒業判定要件および学位)を定め公表 (HP) している。卒業判定については、学則の第 6 章「卒業及び学位」の(卒業の認定及び学位)第 28 条「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書並びに次の学位を授与する。」に沿って実施する。</p> <p>卒業の認定及び学位に関しては、『学生便覧』にて明示。(刊行物：入学時に学生へ配付)</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	124 単位	有	48 単位
	英語学科	124 単位	有	48 単位
	アジア文化学科	124 単位	有	48 単位
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻 発達臨床心理コース	124 単位	有	48 単位
	人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース	124 単位	有	48 単位
	人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース	130 単位	有	50 単位
	人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース	130 単位	有	50 単位
現代社会学部	現代社会学科	124 単位	有	48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：ホームページ『成績評価のガイドライン』 https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/graduation_standard		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページ『学生による授業評価アンケート』 https://www.chikushi-u.ac.jp/files/uploads/h30st.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語・日本文学科	720,000円	150,000円	110,000円	
	英語学科	720,000円	150,000円	122,000円	
	アジア文化学科	720,000円	150,000円	110,000円	
人間科学部	人間科学科 心理・社会福祉専攻	720,000円	150,000円	110,000円	
	人間科学科 初等教育・保育専攻	750,000円	150,000円	130,000円	
現代社会学部	現代社会学科	750,000円	150,000円	110,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【受講時間する支援】</p> <p>◎入学前教育 特に推薦入試合格者に対し、合格学科に関する分野の課題や大学の学びを体験する入学前教育プログラムを提供し、スムーズな大学での学びへの移行を支援している。</p> <p>◎履修指導 大学の学びで最初に戸惑うのが履修登録（時間割作り）です。授業が開講する前の新生オリエンテーションで学科教員がしっかりフォローする。また、いつでも教学支援部などの窓口で単位のことや資格取得に必要な科目について相談できる体制を整えている。</p> <p>◎オフィスアワー 大学では、職員室はなく教員は個人の研究室を持っている。シラバス（講義内容・計画が記載された資料。Web公開）には、教員が必ず研究室にいる時間（オフィスアワー）が記載されている。授業に関する質問や、学生生活、進路など何でも教員と話したいことがあれば利用できる。</p> <p>【実習の支援】</p> <p>◎実習支援センター 教員免許（幼稚園・小学校・中学・高校・特別支援）や保育士、福祉関連資格、学芸員などの資格取得に必要な実習に関するサポートを行っている。実習についてわからないことや不安に感じていることなどを専門スタッフが解決します。</p>

【ICT 教育支援】

◎コンピュータ教室

キャンパス内には4つのコンピュータ演習室と2つのコンピュータ自習室を設置している。社会で必須となるPCやコンピュータ活用力を養うことはもちろん、授業の課題提出やレポート作成、就職活動でも活用できる。

◎Wi-Fi

学内にCJ-spotというWi-Fiを設置し、範囲を広げている。ノートPCやスマートフォンが活用できる環境整備を推進している。

【ピアサポート】

◎チューデントアドバイザー

学生が談話や休憩、自習などに使うことができるスペースとして、キャンパス内に3つ「Student Room」を設置している。講義の準備やレポート作成のために無料で使える印刷機や文具を備えている。Student Roomには、チューデントアドバイザーという学生スタッフが常駐しており、設備の管理や学生の相談相手となっている。

◎LC スタッフ

図書館内にあるラーニングコモンズにおいて、学生の学習を支援する学生スタッフ。レポートの書き方や基礎的な学習講座、試験対策などの学習に関する企画を行うほか、常時学生からの相談にも対応している。

◎学生図書委員

図書館をよりよいものにするための学生団体。学生が本を選びに行く選書ツアーや他大学の図書館を見学に行ったり、館内展示を工夫したりといった活動を行っている。

◎MSG（ミューチュアルサポートグループ）

障がいのある学生が円滑な学生生活を送られるようにサポートする学生団体。例えば、聴覚障害のある学生が受ける授業の音の情報を文字にして伝えるノートテイクやパソコンテイクといった支援活動を行っている。「学生サポートルームラトナ」の職員とも連携して、多様な学生への支援を学生が学生のために行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

◎採用試験等対策

小学校・中学・高校・特別支援学校の教員採用試験について、模擬授業や集団討論、筆記試験対策を教員と実習支援センターのスタッフが共同してサポートしている。センター内には学習スペースあり、参考書も配架されている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

◎保健室

年1回の全学生への健康診断実施や、急な体調不良や怪我等に対し応急処置を行う（休養や手当）。また、学生からの心身に関する相談を受け、場合によっては、学生相談室や精神科医への予約を行う。

◎学生相談室

臨床心理士がカウンセラーとして勤務しており、学生の悩みや心の健康の相談場所として様々な相談支援を行っている。月1回の精神科医の相談も実施しており、必要に応じて他の窓口や機関を紹介している。

◎学生サポートルーム ラトナ（障がい学生支援室）

障がいがあるなどの学生に対し、学生生活で困ったことや授業・試験等で配慮してほしい場面での相談・支援を行う。また、配慮希望の学生に対しては定期的に面談を行い、適切な支援計画を策定し、学内の教職員との情報共有を図っている。学生のサポートスタッフも支援を行っており、ノート・パソコンテイク、ポイントテイク、DVD教材等の文字起こしなどの支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ

https://www.chikushi-u.ac.jp/about/disclosure/education_system